主なESG評価

JFEホールディングスは、国内外のESG評価機関から高い評価を得ています。

【GPIF採用】FTSE Blossom Japan Indexに選定

JFEホールディングスは、FTSE Russell社が提供する「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に選定されています。当指数にはESG（環境・社会・ガバナンス）について優れた対応を行っている企業が選定されており、サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に利用されています。

FTSE Blossom Japan Index

【GPIF採用】FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexに選定

JFEホールディングスは、FTSE Russell社が提供する「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定されています。当指数はFTSE Russell社のESG評価をベースに、一部のカーボンインテンシティ（売上高あたり温室効果ガス排出量）が高い企業については、企業の気候変動リスク・機会に対する経営姿勢も評価に反映されています。

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

FTSE4Good Index Seriesに選定

JFEホールディングスは、FTSE Russell社が提供する「FTSE4Good Index Series」の構成銘柄に選定されています。当指数は「FTSE Blossom Japan Index」と基本的に同じESG 評価スキームを用いており、世界の主要銘柄の中でESG評価の絶対評価が高い銘柄をスクリーニングしたESG総合型指数です。

FTSE4Good

※ FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここにJFEホールディングス㈱が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Index、FTSE Blossom Japan Sector Relative IndexおよびFTSE4Good Index Seriesの組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。これらはグローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス（ESG）について優れた対応を行っている日本企業のパフォーマンスを測定するために設計されたもので、サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

【GPIF採用】MSCI日本株 ESG セレクト・リーダーズ指数に選定

JFEホールディングスは、MSCI社が提供する「MSCI 日本株 ESG セレクト・リーダーズ指数」の構成銘柄に選定されています。当指数は世界で1,000社以上が利用するMSCI社のESGリサーチに基づいて構築し、さまざまなESGリスクを包括的に市場ポートフォリオに反映したESG総合型指数であり、業種内でESG評価が相対的に高い銘柄が組み入れられています。

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI Selection Indexesに選定

JFEホールディングスは、MSCI社が提供する「MSCI Selection Indexes」の構成銘柄に選定されています。当指数は世界の主要銘柄を選定対象としており、MSCI社のESGリサーチに基づいて、業種内でESG評価が高い銘柄が組み入れられています。

MSCI
Selection Indexes Constituents
2025

※ 当社のMSCI指数への組み入れやMSCIのロゴ、商標、サービスマーク、指数名称の使用は、MSCIまたは関係会社による当社のスポンサーシップ、推奨または広告宣伝ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたは関係会社の商標もしくはサービスマークです

【GPIF採用】S&P / JPXカーボン・エフィシェント指数に選定

JFEホールディングスは、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス社と日本取引所グループが共同で開発した「S&P / JPXカーボン・エフィシェント指数」の構成銘柄に選定されています。当指数は、環境情報の開示状況や炭素効率性（売上高あたり炭素排出量）の水準に着目して構成銘柄のウエイトを決定する指数です。

S&P/JPX
カーボン
エフィシェント
指数

【GPIF採用】Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Indexに選定

JFEホールディングスは、Morningstar社が提供する「Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index」の構成銘柄に選定されています。当指数は、Equileap社が提供するデータと評価手法を活用し、確立されたジェンダー・ダイバーシティ・ポリシーが企業文化として浸透している企業、および、ジェンダーに関係なく従業員に対し平等な機会を約束している企業に重点をおいた投資が可能になるよう設計されています。

CDP2024による評価

CDPは、2000年に英国で設立されたESG評価機関（NGO）であり、機関投資家がESG投資に活用するために、CDP質問書として企業にESG情報の開示を求めています。現在、CDPは「気候変動」「水セキュリティ」「フォレスト（森林）」「プラスチック・生物多様性」の4つを活動領域としており、それぞれ8段階（AからD-）で企業を評価しています。CDPが収集する情報量は世界最大の規模になっており（2024年では日本で2,200社以上が回答）、機関投資家や社会的責任投資のさまざまな指標に広く活用されています。JFEグループは、気候変動、水セキュリティの2領域の回答を毎年行っており、CDP2024の質問書に対しては情報開示の適正化を徹底し、高い企業評価を得ています。

【CDP2024評価】気候変動：A-、水セキュリティ：A-、サプライヤーエンゲージメント：A-

健康経営優良法人2025（ホワイト500）に認定

JFEエンジニアリングは「健康経営優良法人2025」の上位500法人である「ホワイト500」に認定されました。これは、経済産業省と日本健康会議が主催する制度で、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰するものです。

同社は、従業員の健康リスク分析に基づき、運動習慣の定着や睡眠リスク改善、喫煙率低下など生活習慣の改善に向けた取り組みを継続的・効果的に実施しています。また、2018年3月から社長をトップとする健康経営推進体制を築くとともに、「JFEエンジニアリング健康宣言」を制定し、健康経営の取り組みを社内外へ開示しています。これらの取り組みが評価され、今回の認定に至りました。

JFEエンジニアリングがホワイト500企業に認定されるのはの5年連続、7度目となります。

SOMPOサステナビリティ・インデックスに選定

JFEホールディングスは、SOMPOアセットマネジメント社が運用する「SOMPOサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に14年連続で選定されています。同指標はESGの評価が高い企業を採用しており、長期的な観点からの企業価値評価を通じて投資家の資産形成に寄与することを目的としています。

DBJ健康経営格付取得

日本政策投資銀行（DBJ）独自の評価システムにより、従業員の健康配慮への取り組みが優れた企業を評価・選定し、その評価に応じて融資条件を設定するという「健康経営格付」の専門手法を導入した世界初の融資メニューです。

当社は、これまでの健康経営の取り組みが認められ、「従業員への取り組みが特に優れている企業」として最高ランクの格付を取得しました。

DBJ環境格付取得

日本政策投資銀行（DBJ）の「DBJ環境格付」は、DBJが開発したスクリーニングシステムにより企業の環境経営度を評価、優れた企業を選定し、得点に応じて3段階の適用金利を設定するという「環境格付」の専門手法を導入した世界初の融資制度です。2016年3月、JFEホールディングスはこれまでの高度な環境経営の取り組みが認められ、「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的と認められる企業」という最高ランクの格付を取得し、同制度に基づく融資を受けました。

ESG以外の外部評価

「DX銘柄2025」に選定

JFEホールディングスは、経済産業省、東京証券取引所および独立行政法人情報処理推進機構が選定する「デジタルトランスフォーメーション銘柄（DX銘柄）」において、業界内で唯一「DX銘柄2025」に選出されました。

本選定プログラムは、東京証券取引所に上場している企業約 3,800 社の中から、ビジネスモデル等を抜本的に変革し、新たな成長・競争力強化につなげていくDXに取り組む企業を、「DX 銘柄」として業種区分ごとに31社を選定し、当社の受賞は2年連続となります。

2025年度完了予定の大規模な製鉄所基幹システムのオープン環境への移行をはじめ、製鉄プロセスのCPS（サイバーフィジカルシステム）化の推進、ソリューション型ビジネスモデルの展開、エンジニアリング事業においてはごみ焼却炉の完全自動運転の実現など横浜本社にあるGRC（グローバルリモートセンター）を活用したエンジニアリング業務の高度化に向けた取り組み、DX人材育成等、JFEグループ各社のDXに関する広範な取り組みについて高く評価を受けています。

主な外部表彰

第6回「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」環境サステナブル企業部門「環境サステナブル企業」に選定

JFEホールディングスは、環境省主催の第6回「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」環境サステナブル企業部門において、「環境サステナブル企業※」として選定されました。

「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」は、ESG金融や環境・社会事業に積極的に取り組み、インパクトを与えた機関投資家、金融機関、仲介業者、企業等について、その先進的な取り組みを表彰し、広く社会で共有することでESG金融の普及・拡大につなげることを目的として創設された表彰制度です。当社は本アワードにおいて第2回(2020年度)に特別賞を受賞、第3回、第4回(2021、2022年度)に「環境サステナブル企業」への選定を受けており、第5回では銅賞を受賞しています(「環境サステナブル企業」にも選定)。

今回、気候変動問題への対応をはじめとしたさまざまな当社の取り組みや対話姿勢が評価されたと考えています。今後も、さらなる取り組みの深化と情報開示の拡充に努めていきます。

※ 本アワードでは「環境関連の重要な機会とリスク」を「企業価値向上」に向け経営戦略に取り込み、企業価値にもつなげつつ環境への正の効果を生み出している企業の具体的な実例を投資家、企業に示すため、「環境サステナブル企業部門」が設定されており、開示充実度が一定の基準を満たしている企業を「環境サステナブル企業」として選定しています

詳細は以下をご参照ください。

> 第6回「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」環境サステナブル企業部門において、「環境サステナブル企業」として選定
(https://www.jfe-holdings.co.jp/release/2025/0220/001631/)

世界鉄鋼協会2025 Steel Sustainability Championsを受賞

JFEスチールは、世界鉄鋼協会が選考する「2025 Steel Sustainability Champions」を受賞しました。

「Steel Sustainability Champion」は、世界鉄鋼協会が1年に一度、持続可能な鉄鋼業と社会の構築をリードし、サステナビリティの向上に関して顕著な成果をあげた会員企業を表彰するものです。

当社は、「JFEグループ環境経営ビジョン2050」を策定し、環境負荷低減に貢献する革新的な技術の開発推進に取り組んでいます。また、環境や人権、安全衛生をはじめとするさまざまな分野のサステナビリティに関する基本方針の策定やデータの開示を実施しています。さらに、これらの情報を「JFEグループサステナビリティ報告書」などを通じて、ステークホルダーに積極的に発信しています。こうした取り組みが評価され、5年連続受賞するに至りました。

今後とも、サステナビリティマネジメントをさらに強化し、事業活動を通じて環境的・社会的課題を解決していくことで、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献していきます。

詳細は以下をご参照ください。

> 世界鉄鋼協会2025 Steel Sustainability Championsを受賞
(https://www.jfe-steel.co.jp/release/2025/04/250408-2.html)

IT賞（トランスフォーメーション領域）受賞

JFEエンジニアリングは、（公社）企業情報化協会（通称：IT協会）より2024年度IT賞（トランスフォーメーション領域）を受賞しました。

この賞は、同協会が日本の産業界において"ITを活用した経営革新" に顕著な努力を払い、優れた成果をあげたと認めうる企業・団体に対し授与している表彰制度で、今年で42回目を迎えます。

当社の第7次中期経営計画（2021～2024年度）最終年度の締めくくりとして4年ぶりに応募し、2020年のIT優秀賞に続き2度目の受賞となりました。

また、当社は2022年にDX推進を担う全社組織として「DX本部」を設置しました。AIやIoTを活用したビジネス変革、業務の効率化や情報システムの刷新やセキュアで柔軟性のあるネットワーク/クラウド基盤の構築、人材育成や風土改革など、さまざまな取り組みを同時並行で展開してきました。今回の受賞は、当社が変革の常態化に向けて着実に成果を生み出し続けている点が高く評価されました。

当社は今後もさらなるビジネス変革に向け、全社的なDX推進と持続的な企業価値向上を目指していきます。

> IT賞 (https://www.jiit.or.jp/im/award.html)
> 2024年度（第42回）IT 賞受賞企業決定: (https://jiit.or.jp/wp/wp-content/themes/JIIT/files/awards/it/pdf_award_news-release_2024_42.pdf)
> 当社DXに向けた取り組み詳細はこちらで紹介: (https://www.jfe-eng.co.jp/dx/)

環境に関する情報発信と交流

技術、商品開発等に関する表彰（2024年度）

	表彰名	対象	主催
JFEスチール	第32回地球環境大賞 農林水産大臣賞	岩国市神東地先リサイクル資材活用藻場創出プロジェクトチーム（神代漁業協同組合／宇部工業高等専門学校／JFEスチール）	フジサンケイグループ（主管事務局：産経新聞社）
	令和6年度全国発明表彰発明賞	海岸近傍でも無塗装使用可能な高耐候性鋼の発明	（公社）発明協会
	第59回機械振興賞　経済産業大臣賞	厚鋼板の高品質化を実現した連続鋳造の凝固完了位置自動計測装置	（一財）機械振興協会
	第71回（令和6年度）大河内記念技術賞	高濃度硫化水素含有天然ガス輸送鋼管用鋼材の開発	（公財）大河内記念会
	令和7年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰	製鉄業の低炭素化に貢献する高炉自動操業技術の開発	文部科学省
JFEエンジニアリング	第50回優秀環境装置表彰 経済産業大臣賞	水噴射と圧力波を組み合わせた高効率ボイラクリーニング装置	（一社）日本産業機械工業会

第32回地球環境大賞 農林水産大臣賞

令和6年度全国発明表彰発明賞

第59回機械振興賞　経済産業大臣賞

第71回(令和6年度)大河内記念技術賞

令和7年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰

第50回優秀環境装置表彰　経済産業大臣賞

第三者意見

上智大学 名誉教授
上妻 義直 氏

1. 新たなマイルストーン

鉄鋼事業の脱炭素化を重要な経営課題と位置づけるJFEグループは、2025年5月に「JFEビジョン2035」を策定し、2035年を2050年カーボンニュートラル(CN)の実現に向けた新たなマイルストーンとして設定しました。「JFEビジョン2035」は、同グループが将来的にありたい姿を示す長期ビジョンですが、その内容は気候移行計画と密接に関連しており、2035年を目標達成年度として、その頃までにCN実現に必要な超革新技術を開発完了し(行動計画)、さらには、CN化に必要な設備投資資金の裏付けとなる事業利益(セグメント利益)を7,000億円規模に拡大する(資金計画)、という2つの計画を含んでいます。

これによって、行動面では、超革新技術の開発完了後、速やかにそれを実装した大規模プロセス転換でCN実現へ向かう道筋が明確になり、また、資金面では、経済的に持続可能なビジネスモデルの確立で安定的な事業収益を確保する成長戦略が打ち出されて、気候移行計画の具体性・合理性により説得力を与えています。

2. 自然資本マネジメントの進化

2025年度から始動した第8次中期経営計画では自然資本マネジメントに注目すべき進化がありました。まずは、その基本方針を定めたこと、さらに、これまでの「生物多様性の保全」に加えて「自然再興」の視点を組み込み、生物多様性を「保全」するだけでなく「育む」方針を明示したことが大きな評価ポイントです。また、開示面でも、LEAPアプローチによる広範かつ詳細なリスク・機会の評価結果が報告されており、ステークホルダーがJFEグループの自然資本マネジメント戦略を理解するのに重要な手がかりを提供しています。

3. 経営戦略と連動した人財戦略

第8次中期経営計画では、企業成長の原動力を人材に求めて、人的資本マネジメントの構造的な見直しを図っています。その基本理念は「会社の成長」と「社員の成長」が連動して経営戦略を実現する仕組み作りであり、構造的には、経営戦略の実行を支える「人材の量的確保施策」とDEI推進や働きやすさ・やりがいのある職場環境の整備による「人材能力の質的向上施策」から構成されています。これらはいずれも社員の労働意欲や能力・スキルを向上させる効果が期待され、人的資本マネジメントの合理的な改革に資すると考えられます。

4. 今後の課題

死亡災害がゼロであったことは大きな成果ですが、休業災害件数は増加しており、とくに請負会社従業員で増加している点が気がかりです。より一層の安全対策が望まれます。また、有価証券報告書でのサステナビリティ情報開示が進む中で、社会データの報告範囲は、依然として大半が財務データと整合的でない状況にあり、今後に改善余地を残しています。

立教大学社会デザイン研究科 特任教授

河口 眞理子 氏

早いもので、第三者意見を述べさせていただくのは今年で9回目になります。初回からJFEグループは気候変動対策において一足早く野心的な目標をたて、それを着実に実行され日本産業界のけん引役を果たされてきたと理解しています。会社としての決意のほどは毎年のトップメッセージから読み取ってきました。年を追うごとにその真剣度が増していると感じてきましたが、今年は経営のコミットメントが一段ジャンプしています。北野社長の「地球温暖化の波が差し迫ってきていると感じており、気候変動問題への取り組みは最重要課題であることは疑いようもありません」には強い覚悟が感じられ、4兆円規模の投資が必要という経営判断は非常に説得力があります。9年前であれば、投資家には歓迎されない経営戦略であったでしょう。

世界的に加速している猛暑、豪雨、干ばつ、山火事などの気象災害をうけ世界では気候変動によるものだというメッセージが増えています。一方国内では異常気象を気候変動と関連付ける論調があまり見られない中で、このトップメッセージはインパクトがあります。

なお昨年指摘させていただいた循環型社会の実現、生物多様性の保全の取り組み強化について、今年大胆に体制を強化されたことは頼もしいと思います。昨年の「循環型社会の取り組み」は、「循環経済への移行」と名称をかえています。これは経済システムの転換にむけグループ全体で組織的包括的に取り組む意思表明と受け止めました。エンジニアリング事業での廃棄物の再資源化、燃料化事業は循環経済の要となるインフラ的事業であり、併せて効率的に物資と情報を循環させる商社の役割も不可欠です。2025年4月から稼働した使用済みプラスチックのマテリアルリサイクル・ケミカルリサイクル事業は、本格的なマテリアルの循環であり、2024年11月稼働した食品リサイクル発電プラントはエネルギーの脱炭素化にも貢献するウインウインの事業です。なお、製鉄事業において工場から発生する副生物のリサイクル化も重要と考えますが、そもそも鉄自体が再生型資源であり、高炉から電炉への転換を進める中で、製鉄事業全体が循環型ビジネスの要となり得ます。鉄鋼製品を起点として循環経済を俯瞰してみてはどうでしょうか。

生物多様性の取り組みでは基本方針を新たに定められました。つかみどころのない生物多様性保全の取り組みがシステム志向で行われるようになると期待します。鉄鋼業は生物多様性とは距離があるように思われるかもしれませんが、事業のためだけでなく、生命そのものが生物多様性に依拠していることを忘れてはいけません。特に地中から鉄鉱石や石炭を掘り出し、地上を改変して大きなインフラを構築するJFEグループの事業は、必然的に生物多様性に大きなインパクトをもたらしています。今年はLEAPアプローチの評価の精度が増しています。生物多様性の可視化

が進むことにより、まずは社内への浸透を期待します。また社内のサイトだけでなく原料の調達先の水リスクや生物多様性の保全の重要度なども評価されたことは大変重要です。自社だけでなくサプライチェーン全体での取り組みがなければ生物多様性の保全は図れません。さらに原料調達地域は人権リスクも同時に高い地域です。生物多様性と同時に人権リスクも統合して評価することをお勧めします。

また「ひと」に関しては新たに人財戦略の全体像を明示されました。役員報酬でのESG業績評価に従業員エンゲージメントに関する指標を加えたことは、人財戦略の実効性を高めるはずです。グループ全体で、サステナビリティ配慮と企業価値向上両面を理解し、仕事に落とし込んでいける人材が多数輩出されることを期待します。国内でも気候変動による自然災害の激化、また全国各地で熊が出没するなど生態系のバランスが激変しつつあります。JFEグループの果たす役割と期待は一段と大きくなっています。